

【特別調査報告】 本慶寺藏書籍群〔本慶文庫〕（一） 仏教（刊本）

安藤 中松  
藤川 金  
直  
弥剛 美



## 緒言

本慶寺は、同朋大学第三代学長の山上正尊（一八九〇～一九六九）を輩出した寺院（真宗大谷派・岐阜県海津市南濃町）である。

同寺住職の山上正宣氏から、所蔵法宝物・書籍群について、同朋大学仏教文化研究所にご相談があったのは、二〇一二年度のことであった。そこで、安藤弥（当時、所員・幹事）が二〇一三年三月四日に本慶寺を訪問したところ、所蔵法宝物・書籍群の研究所への寄託と整理・調査のご希望を伺った。確認のため、ご意向の旨を持ち帰って協議し、もちろんお引き受けすることとなった。よって同月二十六日に再訪問し、いづれも受領し、研究所に移管することができた。

それ以来、整理作業を進めてきたが、諸般の事情から、相当な時間を費やすこととなってしまった。経過については中間報告も重ねたが、このたび、ようやく全体的整理作業終了の見通しが立ったと考え、まずは調査報告の（一）として仏教書（刊本）の目録を提示することにした。

あらためて述べれば、山上正尊は、同朋大学の第三代学長となったのみならず、学園理事長、幼稚園長、そして相次いで開学した名古屋音楽短期大学・名古屋造形芸術短期大学の各学長を歴任し、同朋学園史に大きな実績を残した人物である。真宗大谷派（東本願寺）宗門教学においても、学階講師として重きをなし、『愚禿親鸞の意義』をはじめ多くの著述をなしている。

本慶寺に残るほう大な書籍群はこの山上の教学・研究活動のなかで集積された性格を強く持つであろう（同朋学園関係資料が多く残るのも、もちろん大きな特徴である）。とはいえ、一代限りの集積とも思えず、本慶寺歴代の営みが積み重なり現状に至ったものとみられる。

そもそも、本慶寺は東本願寺の創立者である教如とのゆかりを強く伝え、同寺に所蔵されていた親鸞影像（このたび寄託）は裏書がないものの、讀・銘の筆跡から教如からの授与物とみることができると。さらに、中世の六字名号も伝来し、古い由緒のあることがうかがえる。また、中世のものとみられる真宗聖教類もいくつかある。山上正尊という歴史的存在もそうした伝統の上に、出現してきたことがうかがえる。

以上のような歴史的背景を持つ本慶寺所蔵書籍群の全体像はどのように考えられるのであろうか。本格的な検討をしていく必要がある。

緒言の最後に、貴重な法宝物・書籍群を本研究所に寄託してくださった本慶寺住職山上正宣氏に甚深の感謝を申しあげる。

（文責 安藤 弥）

## 山上正尊の略歴

山上正尊は、明治二十三（一八九〇）年一月一日、岐阜県美濃国養老郡下多度村大字津屋（現・海津市南濃町）にある本慶寺の住職（第十七世）である父・正因と母・アイの長男として生まれた。



山上正尊 昭和37年頃

明治二十九（一八九六）年に下多度津屋尋常小学校に入学、さらに同校の高等科に進学し、明治三十六（一九〇三）年に卒業。同年、京都の真宗京都中学へ入学した。

当時の真宗京都中学は、経営する真宗大谷派（本山東本願寺）の方針により全国の真宗中学を整理し、京都に統合する時期にあたっていた。山上が入学した翌年には、真宗東京中学も合併し、真宗京都中学は、大谷派が直接経営する唯一の中学となっている。このことによって、全国の真宗寺院の門弟が京都に集まり、在校生徒数も増加傾向にあった。

京都中学時代の同級生には、『愚禿親鸞全集』を連沼文範と共に編集した河西大秀、一級上には『仏教大系 浄土三部経』を編集した菅原法嶺や、真宗史学研究の第一人者とされる日下無倫などがいた。

その後、明治四十三（一九一〇）年に真宗大学へ入学し、大正二（一九一三）年に卒業。次いで同大学の研究科（現在の大学院修士課程に相当）に進学した。研究テーマは「元祖以降に於ける真宗の大系」であった。<sup>②</sup>

大正六（一九一七）年、研究科を卒業した山上は、地元の養老郡高田町で徴兵検査を受け甲種合格し、志願兵として愛知県東春日井郡守山町（現・名古屋守山区）にあった歩兵第三十三連隊に入隊し、軍隊生活

を送ることとなった。当時の情勢は、第一次世界大戦中で、シベリア出兵の差し迫った時期の入隊であったが、翌年には満期除隊し、その後は予備役として演習に参加した。最終的には大正十（一九二二）年、一小隊を率いることのできる予備役陸軍少尉に任じられた。

山上は大正七（一九一八）年十二月より真宗大谷大学内の宗史編纂所において『真宗大系』編輯に従事し、大正十一～四年は本山の侍董寮に勤めた。大正十四（一九二五）年には、名古屋別院境内に設立されていた真宗専門学校（現・同朋大学）の教授となった（三十六歳）。

その後、昭和二十五（一九五〇）年、真宗専門学校から東海同朋大学に昇格した同大学の教授に就任した。昭和三十三（一九五八）年には第三代学長（同年、同朋大学に改名）となり、学園の発展に大きく尽力し、さらに学園の要職を歴任した。昭和四十（一九六五）年には、多年にわたる教育者として、また学園経営の功績が認められ、勲三等瑞宝章を授与されている。

大谷派宗門においては、学階の最高位である「講師」にまでなり、安居では『口伝鈔』（昭和二十一年次講）、『二念多念文意』（昭和三十一年本講）を講じている。晩年まで同朋学園の運営に心血を注いだ山上であったが、亡くなる半年前から体調を崩し、昭和四十四（一九六九）年十一月十八日、自坊の本慶寺において没した。七十九歳であった。

（文責 中川 剛）

## 書籍群の概要と整理作業・分類方針・研究展望

本研究ではこれまでも所蔵する古書目録を度々紹介してきており、近年の成果としては、愛知県豊橋市花園町の應通寺（真宗大谷派）から寄贈された「應通文庫」の古書目録がある。そこでは、八十四部一七三冊の古書について、分類別で部・冊数を掲げて、特徴の分析を試みた。<sup>3)</sup>

本慶寺所蔵書籍群については、應通文庫に比して、部・冊数がかなり多いと見込まれたが、基本的には真宗寺院の蔵書群として、同様の性格を持つと考えられた。そこで、やはり順次整理を進めるなかで、全体像の把握に努め、分類を検討し、分類別による歴史的意義・特徴を検討していくことを課題とした。

さて、書籍群には、おおよそ近世から近代に刊行・書写されたものがあり、近世のものには、同時代に入手されたとみられるものと、山上正尊によって購入されたものが含まれている。

作業としては、まず、刊本・写本・ノート類に大別し、次に、刊本の整理から着手した。整理の結果、刊本は五八四部一三三八冊を数え、その大半が仏教書であるという、真宗寺院の蔵書群にみられる基本的特徴を確かめることができた。

その仏教書をさらに「仏教」、「浄土」、「真宗」に分類しながら整理をした。浄土宗全般に関する書籍を「浄土」、浄土真宗に関する書籍を「真

宗」とすると同時に、仏教学あるいは通仏教に関する書籍ならびに浄土宗・浄土真宗以外の宗派に関する書籍を便宜上「仏教」に統括した。

このなかで、今回はまず「仏教」の簡易目録を掲載する。「仏教」に分類される書籍は一四六部五〇四冊あり、刊本全体における四分の一の部数を占める。基礎的に、さらに専門的に仏教学を学べるものから、説話や実用的な内容のものまで多岐にわたる。

そのうち、興味深い一群が聖徳太子に関連する書籍六部（107、112）である。なかでも『説法明眼録』は二部（110、111）ある。111には「京寺町蛸葉師前敦賀屋久兵衛」という版元の情報があるが、110にはないものの、表紙に山上は朱筆で「寛永頃版」と記している。山上は版の異なる両書を、研究のために意図的に入手したものとみられる。同書は、聖徳太子に仮託された唱導書であるといい、鎌倉中期には成立・流布していたという。内題の下に「童円通」作とあり、これが太子の童名とされる。<sup>4)</sup>

110・111のいずれにも「山上正尊図書」の朱印が捺印されており、111は大正八（一九一九）年三月十一日に購入したと表紙見返しに明記されている。また、それぞれに前所有者とみられる寺院名の記載がある。110には近江国蒲生郡深内蛇溝村（滋賀県東近江市蛇溝町）にある本啓寺（真宗大谷派）の了閑とあり、111には姫路（兵庫県姫路市）の明泉寺（真宗大谷派）の蔵書印が捺印されている。何らかの事情で旧所蔵寺院から流出した書籍を山上が購入して、本慶寺に所蔵されることとなったようだ。なお111の表紙見返しには朱筆で、次のように記されている。古代の史書

である「聖皇本紀」(『先代旧事本紀』)の用明天皇一(五八七)年条に、聖徳太子が『説法明眼論』を製作したと掲載されている。ただし「聖皇本紀」には信用すべきでない記述が多い。『説法明眼論』の端書註によると、聖徳太子が前生で南岳にいる時、円通院に居住していたため、「円通」と称したとある。これが作者名「童円通」に該当するが、怪しむべき説である。以上の内容は、真宗西派の学僧で宗史家の玄智(一七三四〜九四)による天明二(一七八二)年に刊行された『浄土真宗教典志』での評価であり、同書の「偽妄濫真部」に掲載されている<sup>5)</sup>。また110の後筆された題箋には「偽書聖徳太子述卜、説法明眼論 全」とあり、同様の評価が確認できる。

111表紙見返しの末尾には「大正十年四月太子千三百年遠忌ヲ迎フルノ日、浄土真宗学徒、正尊附記」とある。つまり大正十(一九二二)年四月の聖徳太子千三百年遠忌を迎える日に、山上は聖徳太子作と伝わる同書に対して、偽書と判断すべきと明記しているのである。大正八年に三十歳の山上は111を購入し、その二年後の大正十年、聖徳太子千三百年遠忌を迎えるにあたって、同書に対する評価を記述している。遠忌を控え、聖徳太子に関する史料の蒐集を進めながら、研究に邁進していった姿勢が垣間見られる。親鸞聖人の「同朋」とともに聖徳太子の「和敬」を建学の精神とする同朋学園において、要職を歴任することとなる原点が、ここで培われていたとも言えるだろう。

研究展望としては、仏教・真宗に精通した研究者である山上正尊が輩

出された本慶寺の知的土壌を、本書籍群の整理・分析によって明らかにすることを企図する。また前掲したもの以外にも、山上はいくつもの書籍に、購入先や購入年月日、さらに内容に対する評価を詳細に朱筆で記載している。そこから近世以来の仏教書を山上が、どのような意図で入手し、いかに読書して、知的営為に活かしていったかを知ることができ。近世から近代にかけて、仏教をめぐる学問の継承と展開の具体像を、本書籍群から導き出すことができると考える。

(文責 松金直美)

#### 注

- (1) 「本慶寺所蔵書籍群(本慶文庫) 整理作業中間報告」(『同朋大学佛教文化研究所報』第三二号、二〇一八年)、「本慶寺所蔵書籍群(本慶文庫) 整理作業中間報告「二」」(『同朋大学佛教文化研究所報』三三、二〇一九年)。
- (2) 「宗報」第一九〇号(宗報発行所、一九一七年七月)一六頁。
- (3) 市野智行・中川剛・藤村潔・松金直美「同朋大学仏教文化研究所蔵古書目録―應通文庫―」(『同朋大学仏教文化研究所紀要』第三三号、二〇一四年)。
- (4) 阿部泰郎「説法明眼論」(『聖徳太子事典』柏書房、一九九七年)。
- (5) 「三卷本浄土真宗教典志」(『真宗全書』第七十四卷、蔵経書院、一九一六年)。

#### 付記

本中間報告の書誌データ入力作業・分類に関して、藤村潔氏、市野智行氏、日比野洋文氏、斎藤聖氏のご協力をいただいた。

番号	名称	員数	形態	寸法 (縦)	寸法 (横)	出版者	出版年 和暦	出版年 西暦
1	天台四教義集註	2冊	袋綴	27.8	19.0	(京都) 市右衛門	元和3年孟夏	16170499
2	四教儀集註半字談	5冊	袋綴	26.8	19.2	和泉屋庄次郎	嘉永2年4月	18490499
3	四教儀集註講述	12冊	袋綴	17.8	12.5	(京都) 西村九郎右衛門	明治28年6月5日	18950605
4	天台伝心印記	1冊	袋綴	27.1	18.4	長谷川市郎兵衛開板	延宝9年3月吉祥日	16810399
5	天台集解要文	8冊	袋綴	26.8	19.0	武村市兵衛昌常・村上勘兵衛元信・山本平左衛門常知・八尾甚四郎友春	寛文9年1月	16690199
6	冠導天台四教儀集註	6冊	袋綴	25.8	18.5	(京都) 興教書院	明治29年11月30日	18961130
7	科註天台四教義	1冊 (上・中・下巻合本)	袋綴	27.4	19.3	(京都) 吉野屋権兵衛	寛文10年5月	16700599
8	天台円宗四教五時西谷名目	1冊	袋綴	27.9	19.9	—	慶安3年初春	16500199
9	天台円宗四教五時西谷名目	2冊	袋綴	26.7	19.4	—	—	99999999
10	西谷名目之鈔	2冊 (巻1～3合冊と 巻4～5合冊)	袋綴	26.8	19.1	—	—	99999999
11	冠註五教章	10冊	袋綴	26.1	18.5	(京都) 山城屋○文政堂 藤井佐兵衛	明治37年6月 求版・版權譲受	19040699
12	大方広円覚修多羅了義経略疏	4冊	袋綴	26.8	17.8	(京都) 村上平樂寺重綱	元禄7年初秋	16940799
13	大方広円覚修多羅了義経略疏	5冊	袋綴	26.7	19.0	(京都) 村上平樂寺	寛文10年仲春	16700299
14	円覚疏鈔随文要解	12冊	袋綴	27.7	19.0	日東帝幾宣風房 書肆 井上忠兵衛	元禄11年	16989999
15	八宗伝来集	1冊	袋綴	25.9	17.3	平田半左衛門刊行	正保4年仲冬	16471199
16	八宗綱要抄	1冊	袋綴	26.1	18.8	(京都) 文政堂藏 書籍経類版行所、山城屋 (京都) 藤井佐兵衛	明治18年6月 (序)	18850699
17	八宗綱要鈔講述	3冊	袋綴	23.0	15.8	法藏館	明治27年11月1日	18941101
18	八宗綱要	1冊	袋綴	25.3	17.9	(京都) 丁字屋九郎右衛門	文政11年8月 (序)、 文政9年12月 (凡例)	18280899

19	注維摩詰經	5冊	袋綴	26.6	18.8	中野道也		寛永18年秋季	16419999
20	注維摩詰經	5冊	袋綴	27.4	18.8	永田長兵衛・中野吉右衛門		貞亨3年9月	16860999
21	十不二門指要鈔講述	2冊	袋綴	25.9	18.5	編輯兼出版人(滋賀県) 森山守源		明治13年8月	18800899
22	十不二門指要鈔合本	2冊	袋綴	26.3	18.8	発行兼印刷者(京都) 出雲路文治郎、(京都) 河村泰太郎、 (京都) 澤田友五郎		明治36年7月30日	19030730
23	止觀大意講要	1冊	袋綴	25.7	18.1	(江戸) 擁萬閣山口屋森江佐七		文久2年12月	18621299
24	科註妙法蓮華經	10冊	袋綴	26.6	19.2	中村五兵衛		元禄4年文月下弦	16910899
25	秘密念仏鈔	3冊	袋綴	26.8	17.9	長谷川市郎兵衛		正保2年8月	16450899
26	起信論疏筆削記	10冊	袋綴	26.8	19.4	神洛銅駝書肆村上平樂寺		延宝庚申寒露之後	16809999
27	起信一心二門大意	1冊	袋綴	25.0	17.6			天明1年6月(序)	17810699
28	大乘起信論校註	1冊	袋綴	25.6	18.2	製本発行所(京都) 山城屋○文政堂 藤井佐兵衛		明治37年6月 求版・版權譲受	19040699
29	大乘起信論	1冊	粘葉装	24.2	15.9			—	99999999
30	称讃浄土教	1冊	袋綴	26.5	18.6			—	99999999
31	大乘莊嚴經	1冊	袋綴	26.5	18.5	(京都) 菱屋亦兵衛		—	99999999
32	無量寿經	1冊	袋綴	26.4	18.4			—	99999999
33	無量寿会	1冊	袋綴	26.3	18.3			—	99999999
34	大阿彌陀經	2冊	袋綴	26.4	18.6			—	99999999
35	仏説無量寿經	2冊	袋綴	25.6	18.3			—	99999999
36	佛説無量寿經科解	14冊	袋綴	27.9	19.3			—	99999999
37	観経了音鈔	8冊	袋綴	26.0	18.4	(京都) 金屋小佐治半右衛門、(京都) 半四郎、(大阪) 毛利田庄太郎		享保5年4月	17200499
38	仏説観無量寿經	1冊	袋綴	25.8	18.5			—	99999999
39	観経正宗分定善義	1冊 (3・4巻合本)	袋綴	25.6	18.4			—	99999999
40	阿彌陀經 漢音	1冊	袋綴	15.5	9.4	(京都) 護法館 丁子屋西村九郎右衛門		—	99999999
41	阿彌陀十疑論	1冊	袋綴	27.6	17.8	(京都) 武村市兵衛		正保2年3月	16450399



42	仏説阿弥陀經ノ科段	1冊	袋綴	25.7	18.5	—	—	—	—	99999999
43	金剛經註	3冊 (上巻2冊、中巻1冊、下巻欠)	袋綴	27.6	18.2	中野市右衛門刊行	—	—	寛永9年3月	16320399
44	摩訶止観	10冊	袋綴	27.3	19.4	—	—	—	—	99999999
45	三論玄義	2冊	袋綴	26.9	19.0	文台屋治郎兵衛藏版	—	—	元禄14年8月	17010899
46	冠導増補成唯識論	10冊	袋綴 (包紙欠)	26.3	18.9	(京都) 法藏館 西村七兵衛	—	—	明治21年6月5日	18880605
47	俱舍論頌疏	14冊	袋綴	26.4	18.8	(京都) 山城屋 文政堂 藤井佐兵衛	—	—	宝永5年10月	17081099
48	阿毗達磨俱舍論	10冊	袋綴	26.1	18.9	(京都) 八木治兵衛	—	—	寛延4年8月	17510899
49	阿毗達磨俱舍論	10冊	袋綴	26.8	18.9	—	—	—	—	99999999
50	阿毘達磨俱舍論因紀	4冊	袋綴	25.6	18.5	額田正三郎求板、銅駝坊書林村上平架寺寿梓	—	—	元禄8年盛秋	16950799
51	大威徳陀羅尼經	1冊	袋綴	28.1	18.0	—	—	—	—	99999999
52	大乘理趣六波羅蜜多經	1冊	袋綴	28.3	18.6	—	—	—	—	99999999
53	因明入正理論	1冊	袋綴	26.1	18.8	□屋宇平求版、(京都) 額田一止人 伊勢屋正三郎	—	—	正保5年1月下旬	16480199
54	鬘頭因明入正理論科註	1冊	袋綴 (袋入)	26.1	18.5	(京都) 三書堂梓	—	—	明治21年10月	18881099
55	教觀綱宗、教觀綱宗釈義	1冊	袋綴	27.9	19.3	黄栗山宝藏院識/沙門鐵眼募刻	—	—	天和元年冬月	16819999
56	弁西方要訣真偽造疑	1冊	袋綴	27.7	19.7	(京都) 池田屋七兵衛、梅村玉池堂、正本屋吉次郎、正本屋九兵衛	—	—	安永10年3月	117810399
57	法華経直談鈔	20冊	袋綴	26.3	18.9	風月庄左衛門新刊	—	—	万治2年7月	16590799
58	法華玄義釈籤講述	15冊	袋綴	22.6	15.8	貝葉書院	—	—	明治29年8月8日	18960808
59	法華玄義釈籤傍註	20冊	袋綴	26.3	18.8	発行所 (京都) 貝葉書院	—	—	明治32年7月13日出版 (巻第1上)、明治35年 1月30日発行(巻第10 下)	18990713
60	冠註四部録	1冊	袋綴	26.4	19.1	(京都) 発行兼版權所有者 出雲寺文治郎	—	—	明治9年8月	18760899

61	識智淨土論	1冊	袋綴	26.3	18.5	—	—	—	99999999
62	華嚴經旨歸	1冊	袋綴	26.3	18.5 (京都) 永田榮治郎	—	(近代)	99999999	
63	弥陀経義	1冊	袋綴	27.1	18.7 松木屋大角清兵衛寿梓	—	元禄8年2月	16950299	
64	当麻曼荼羅科節	1冊	袋綴	26.1	18.5	—	天和2年孟陬	16820199	
65	延命地藏経鈔	2冊	袋綴	27.3	19.5 前川茂右衛門・同氏権兵衛 寿梓	—	元禄9年庚辰月	16960799	
66	略述法相義	1冊	袋綴	26.5	18.3 (京都) 書林 善屋宗八藏版	—	—	99999999	
67	十二礼	1冊	袋綴	27.4	18.0 (京都) 丁子屋庄兵衛	—	明和6年3月	17699999	
68	孟蘭盆経便蒙	2冊	袋綴	27.3	19.3 篠屋義兵衛刊行	—	天和2年正月	16820199	
69	孟蘭盆経疏新記標指鈔	5冊	袋綴	27.1	17.7	—	延宝9年7月跋	16810799	
70	盆供私記	1冊	袋綴	27.1	17.9 (京都) 永田調兵衛開板	—	元禄11年6月	16980699	
71	仏説孟蘭盆経鼓吹	6冊	袋綴	25.7	18.9	—	元禄3年7月仏敎喜日	16900799	
72	仏説孟蘭盆経	1冊	袋綴	26.5	19.0 (京都) 平楽寺開板	—	寛文3年3月	16630399	
73	孟蘭盆経和解	1冊	袋綴	27.8	19.4 (京都) 梅村弥右衛門版	—	享保9年林鐘	17240699	
74	孟蘭盆経疏新記	2冊	袋綴	27.1	19.9 (京都) 梓行 中塾小左衛門	—	寛文5年仲夏日	16650699	
75	仏説孟蘭盆経新疏	2冊	袋綴	27.8	19.3 (京都) 吉田五良兵衛刊行	—	延宝8年7月15日(序)	16800715	
76	仏説孟蘭盆経略注	1冊	袋綴	27.0	19.0	—	元禄5年7月28日(叙)	16920728	
77	孟蘭盆経疏新記抄	4冊	袋綴	27.3	17.6 (京都) 武村市兵衛	—	慶安1年5月	16480599	
78	孟蘭盆経疏新記	2冊	袋綴	28.0	17.9 中野市右衛門	—	寛永7年12月	16301299	
79	孟蘭盆経疏新記	4冊	袋綴	26.8	19.6	—	天和2年4月	16820499	
80	孟蘭盆経疏新記直講	6冊	袋綴	27.6	19.3	—	延宝6年4月上浣(序)	16780499	
81	孟蘭盆経折中疏	1冊	袋綴	27.5	18.4 山形屋嘉兵衛、和泉屋茂兵衛	—	貞享3年2月上旬	16860299	
82	孟蘭盆散供儀	1冊	袋綴	25.8	18.3 法分館 (京都) 澤田友五郎	—	(近代)	99999999	
83	孟蘭盆法式略解	1冊	袋綴	27.1	18.0 (京都) 北村六兵衛	—	貞享5年仲夏	16880599	
84	蘭盆経院会古通今記	2冊	袋綴	26.9	17.0 (京都) 武村市兵衛	—	万治3年孟春	16600199	
85	盆供施戯鬼問弁	1冊	袋綴	25.6	18.0 京師書房 (京都) 向松堂 善屋宗八	—	明和2年秋(序)	17659999	
86	盆供私記	1冊	袋綴	24.5	16.9 (京都) 永田調兵衛開板	—	元禄11年6月	16980699	

87	施食盆供弁讃	1冊	袋綴	23.3	15.9	二念庵藏版、(東京) 大村屋總兵衛	文政10年夏	18270499
88	孟蘭盆経疏新記愚問鈔	8冊	袋綴	27.6	19.5	(京都) 山田市郎兵衛刊行	天和4年1月	16840199
89	真言宗大意	1冊	袋綴	22.8	15.6	真宗東派本願寺教育課蔵、(大分県) 妙正寺前住職 小栗 栖香頂、(京都) 校閲兼出版人 石川舜台	明治10年3月5日	18770305
90	喇嘛教沿革	3冊	袋綴	21.9	15.3	臨犀楼蔵、出版人(京都) 石川舜台	明治10年2月14日	18770214
91	大明太宗文皇帝御製藏経讚	2冊	袋綴	26.9	19.0	(京都) 伊勢屋額田正三郎	—	99999999
92	大日本校訂大藏经目錄	1冊	袋綴	22.9	15.1	弘教書院	明治18年12月	18851299
93	維摩詰所説経	1冊	袋綴	27.0	19.4	要法寺之前 堤六左衛門	正保4年仲秋	16470899
94	注維摩经会要卷曝鈔	5冊	袋綴	27.9	19.1	日東帝畿書林 村上藤左衛門・永田調兵衛・井上忠兵衛	元禄16年1月	17030199
95	思益梵天所問経簡註	2冊	袋綴	25.9	17.2	—	萬曆(明代) 32年11月	16041199
96	三国仏法伝通縁起	1冊	袋綴	25.8	18.7	(京都) 出版人永田調兵衛、(京都) 西村九郎右衛門、(京都) 白井平兵衛、(京都) 澤田友五郎	明治9年5月8日	18760508
97	三国仏法伝通縁起	3冊	袋綴	23.3	16.2	校閲兼出版人(京都) 石川舜台	明治9年12月11日	18761211
98	三国仏法伝通縁起典拠	3冊	袋綴	22.8	15.1	真宗東派教育課蔵版	明治12年5月 ~明治13年12月20日	18790599
99	三国仏法伝通縁起	1冊	袋綴	22.2	15.4	澤田友五郎・白井平太郎・西村九郎右衛門・永田調兵衛	明治10年9月18日	18770918
100	校正三国仏法伝通縁起	3冊	袋綴	24.4	15.8	真宗東派本願寺教育課	明治9年12月11日	18761211
101	訓點改正往生要集	6冊	袋綴	25.8	18.4	(京都) 西村九郎右衛門、(京都) 小林莊兵衛、(京都) 赤井長兵衛	元禄10年	16979999
102	往生要集	3冊	袋綴	25.3	17.9	(京都) 善屋宗八、知恩院古門前 澤田吉左衛門、(京都) 山城屋佐兵衛、(京都) 丁子屋庄兵衛	天保14年3月	18430399
103	往生要集	5冊 (中之本巻欠)	袋綴	25.8	19.0	—	貞享元年重陽日	16840909
104	往生至要抄	2冊	袋綴	26.3	18.3	緑山位業堂蔵版	安政6年3月	18590399
105	往生講式	1冊	袋綴	27.8	17.8	(京都) 村上平樂寺	寛永21年8月	1644099
106	善導和尚臨終正念要決	1冊	袋綴	26.5	18.0	丁子屋三郎兵衛	寛文4年10月中旬	16641099
107	東海一影	4冊	袋綴	25.7	18.1	—	宝曆5年11月下旬(序)	17551199

108	太子伝東海一影 中編	3冊	袋綴	25.7	18.1		—	宝暦11年5月下旬	17610599
109	偽書未來記破疑	1冊	袋綴	26.4	18.9	武州江城開版	—	慶安2年晩春下幹	16490399
110	説法明眼論	1冊	袋綴	27.9	18.5		—	—	99999999
111	説法明眼論	1冊	袋綴	27.0	19.1	(京都) 教賀屋久兵衛		—	99999999
112	説法明眼論端書	1冊	袋綴	27.7	19.2		—	寛永21年暮秋下旬	16440999
113	麒麟聖財立宗論	1冊	袋綴	27.3	17.3	(京都) 林甚右衛門		正保3年	16469999
114	諸宗水波論況同異章	1冊	袋綴	26.4	18.5		—	寛政5年3月(序)	17930399
115	日本最初念佛法話諺註	1冊	袋綴	25.6	18.7		—	明和5年5月5日(序)	17680505
116	愚迷発心集	1冊	袋綴	27.2	19.6		—	—	99999999
117	末法灯明記	1冊	袋綴	27.7	19.3	文台屋治郎兵衛藏版		—	99999999
118	末法灯明記	1冊	袋綴	28.4	19.1		—	(表紙・朱筆)「寛永版」	99999999
119	日本往生極楽記	1冊	袋綴	26.4	17.1	神籬書肆長尾平兵衛梓		寛文9年10月	16691099
120	一言芳談抄	1冊	袋綴	25.3	17.9	林甚右衛門刊 (京都) 藤井文政堂 山城屋佐兵衛		慶安元年	16489999
121	発心集	7冊	袋綴	27.2	19.1		—	(慶安印刻本)	99999999
122	広弘明集	20冊	袋綴	28.1	20.1	(京都) 吉野屋権兵衛開版		承応3年9月	16540999
123	元亨釈書	23冊	袋綴	26.6	19.2	(京都) 津屋勘兵衛		元禄3年5月	16900599
124	閑居友	2冊	袋綴	27.2	18.5		—	—	99999999
125	表白集	1冊	袋綴	26.3	17.8	秋田屋九兵衛		寛文4年5月	16640599
126	聖祖功德頌	1冊	袋綴	26.3	18.3	高田後学権律師釈光大和南		文化7年□月8日	18109908
127	唐朝京師善導和尚類聚伝	1冊	袋綴	27.4	17.5	吉田庄左衛門		承応3年8月	16540899
128	長西録	1冊	袋綴	26.7	18.7	上村次郎右衛門		寛文2年仲冬	16621199
129	日月西行軌	1冊 (未巻のみ)	袋綴	26.0	18.6	湖東圓光寺藏板		万延元庚申秋新鐫	18609999
130	仏説阿彌陀経義疏開持記	3冊	袋綴	27.4	18.7		—	—	99999999
131	摧邪弁玉録	2冊	袋綴	25.7	18.4	法華宗門書堂、(京都) 平楽寺村上勘兵衛		天保13年4月(序)	18420499
132	孝感冥祥録	1冊	袋綴	25.4	18.1		—	享保19年1月15日(序)	17240115

133	守護国界急務	1冊	袋綴	25.8	18.3	—	—	慶応3年12月	18671299
134	散斯克小文典	3冊 (上・中・下)	袋綴 (包紙入)	22.8	15.8	真宗東派本願寺教育課	—	明治10年12月	18771299
135	門跡伝	2冊	袋綴	22.4	15.8	小野御殿御蔵	—	弘化2年	18459999
136	秘藏宝論	3冊	粘葉装	22.6	15.6	—	—	—	99999999
137	弁躰密二教論	1冊 (下巻のみ)	粘葉装	22.6	15.8	—	—	—	99999999
138	諸關宗脈紀	2冊	袋綴	27.9	19.4	(京都) 柳川定栄・藤屋武兵衛 開版	—	享保3年正月	17180199
139	日本国大師一覽	1冊	袋綴	22.3	15.7	壳朔書林 西村九郎右衛門・西村七兵衛	—	明治13年8月刻成	18800899
140	祖蹟跋文	1冊	袋綴	22.5	15.5	(朱印「古経／堂印」)、印施主任者吉田蕉巖	—	明治17年3月上浣	18840399
141	円頓融通大念仏三業修行勸懲記	1冊	袋綴	13.3	20.3	—	—	天保8年1月(序)	18370199
142	不思議問答	1冊	袋綴	18.5	12.5	本朝都会書房 京都 須原屋茂兵衛、浪華 北尾善七、 名護屋 永楽屋東四郎、金沢 八尾屋喜兵衛、安濃津 篠田伊十郎、姫路 灰屋助次、広嶋 米屋平助、京都 近江屋佐太郎・中尾三衛門	—	天保13年	18429999
143	弘法大師講式	1冊	折本 (帙入)	14.9	10.5	紙屋 庄左衛門開板	—	正徳5年10月	17151099
144	禪書四部録	1冊	袋綴	15.3	10.9	(京都) 出雲寺和泉掾	—	元禄2年1月下旬	16890199
145	甘露門	1帖	折本	14.9	269.4	(京都) 柳枝軒小川多左衛門	—	天保6年春季再刻	18359999
146	禅林類聚	20冊	袋綴	26.0	16.5	(京都) 三条通梅忠町開板	—	寛永17年4月	16400499

